

第1章 個別の状況に応じた具体的支援について (応用編)

◇ 支援の始まりは気づきから

冊子【できた！わかった！たのしいよ！】に掲載しましたように、気になるこどもの姿（サイン）に気づき、共感することから支援を行なってきました。

こどもの行動を観察し、どの部分につまずきがあるのかを見極め、必要な支援を考えて行いますが、支援を継続していてもこどもの姿（困りごと）が変わらない時や、成長に伴ってこれまでとは違うこどもの姿（困りごと）が出てきた時、行っている支援の内容を見直さなくてはなりません。

今どのような状態にあるのか、こどもの行動をよく観察し、どのようなことが得意でどのようなことが苦手で、そしてどのような支援が必要なのか、発達障害の特性を捉え、それを生かした一人一人に合った適切な支援方法を考えましょう。

◇ 一人一人にあった支援を目指して

冊子【できた！わかった！たのしいよ！】の第1章、個別の状況に応じた具体的支援を試みてくださった方々から、「参考になった。」という声が多数あった中、「実際に支援を試みたが、うまくいかなかった。」という声もいただきました。発達障害の特性は共通していてもこどもの姿は一人一人違い、同じ支援ではうまくいかないことも生じます。

一人一人にあった支援を目指してパートⅡの第1章では、いろいろな場面で行った支援と、その支援によるこどもの状況でうまくいかなかったことに焦点を当て、〈なぜうまくいかなかったのか〉を振り返りました。そのうえで、こどもの姿と特性の捉え方が合っていたのか、具体の支援が合っていたのか、困りだけでなく強みを生かした支援となっていたのか、を見直し、次に行った一人一人への支援による効果と、集団で過ごす良さを生かし、集団で共に育ち合う支援の具体的な状況を紹介します。

紹介している具体的支援が、個別指導計画の中で示されていますので合わせてご覧ください。